

## 静岡南高校への移転に向けた動き

### 事務局

2月7日の静岡新聞朝刊1面に「県の自然史系博物館構想 調査研究、教育を重視」という記事が掲載されました。この記事によれば、県は自然史系博物館について「県自然学習資料センター」を調査研究や展示・情報発信、教育の各機能も重視した施設とする方針を固め、平成25年度に本格的な移転整備事業に着手し、25年度当初予算に約3億円を計上して設計と工事に入り、平成26年度中にオープンを目指す、というものでした。また、センターに多様な機能を持たせる際に課題となる運営体制は今後、早急に検討していくことも触れられていました。

今年度、すなわち平成24年度は、県予算に自然学習資料センターの静岡南高校の校舎への移転にかかわる施設の設計予算が盛り込まれ、これまでに県企画広報部政策企画局企画課では、当NPOと静岡南高校の校舎の視察も含め何度となく打ち合わせを行ってきました。その一方、県企画課では教育委員会やくらし・環境部、文化・観光部など庁内の各部の委員からなるワーキンググループ（自然系博物館機能検討委員会）を設置してさまざまな協議を行い、県主計部との予算折衝、校舎を他の施設に変更することによって生じる多々の問題解決などに取り組んでこられました。

静岡南高校校舎への移転については、これまで収集保管を行ってきた自然史資料が増加し保管や管理スペースが狭くなり、適切な資料の収集保管環境を確保することで、県企画課ではこれを契機に自然学習資料センターに、これまでの散逸の危惧のある標本収集だけでなく、収集・保管、調査研究、展示・情報発信、普及・教育という博物館の機能を持たすことを整備内容に盛り込みました。この改修整備に向けて、県企画課では今年度当初から当NPOと意見交換を行ってきました。

昨年末（12月25日）に行った意見交換会では、新たにできる活動拠点は博物館類似施設として県直営にする、すなわち指定管理者制度などで運営を委託しないことを明言されました。また、当NPOからは新拠点についての基本構想委員会の設置や運営体制の概要を明らかにすることを要求しましたが、これを受けて県企画課では今年から自然系博物館機能検討委員会での勉強会の実施や外部委員からなる整備方針を策定する整備検討委員会が設置されることになりました。

平成25年1月15日に自然史博物館とその展示について当NPOの理事でもある柴正博氏が、2月18日には博物館の教育活動について国立科学博物館の小川義和氏による講演が行われました。また、整備検討委員会は1月末に設立され、3月末までの間に整備方針を策定することになりました。この委員会では整備方針と博物館機能についての活動計画、施設の配置計画、運営計画等が具体的に検討されています。この委員会は、委員長を含め7名の委員から構成され、当NPOからは柴正博氏と三宅隆氏が委員として出席しています。

県企画課では、今年度末に出される整備検討委員会の整備方針に従い、来年度初頭から自然学習資料センターの移設にともなう施設設計を発注し、秋には工事の発注を行い、再来年度（平成26年度）の前半に資料等の移転を完了して、新たな拠点施設を開所する予定です。平成25年度予算に計上された約3億円はその設計・改修工事の25年度分に当たります。

整備委員会では、私たちがこれまで提案してきた自然史博物館についての組織や機能、設備の一部が具体化される見込みです。おそらく、その結果については4月の当NPOの総会で、みなさんに報告できると思います。